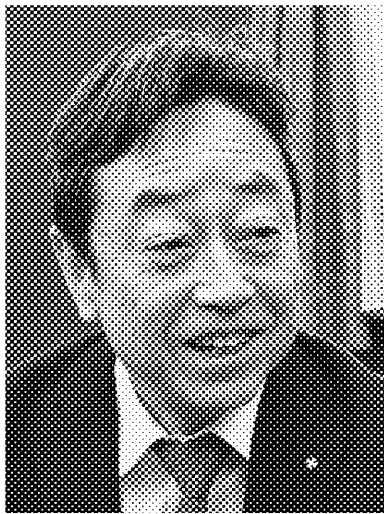


新 社 長

New president



中外炉工業

阪田 守氏

中外炉工業は熱処理炉や鉄鋼・非鉄金属プラントなどを手がける。カーボンニュートラル（温室効果ガス排出量実質ゼロ、CN）実現に向け、水素・アンモニアバーナーの技術開発で業界をリードしている。水素・アンモニアのサプライチェーン（供給網）構築を取り巻く状況が不透明な中、今後の戦略をどう描くか注目される。阪田守社長に聞いた。

「鉄鋼・非鉄金属メーカー向けの焼鈍炉などを手がけてきた。印象的だった仕事は、連続焼鈍ライン（CAL）や連続亜鉛メッキライン（CGL）をベトナムに納入した大規模案件だ。大手鉄鋼メーカー向けでライン一式を設計段階から取りまとめたのは、当社として初めてだった。私

燃焼技術、他社と連携拡大

はプロジェクト管理者として、いかに先手先手を打って考えるかを大事にし、納期と品質を守ることできた」

「水素・アンモニアを燃料とするバーナーや工業炉の開発は。インフラ面やコスト面が不透明な現状では、顧客がCNに向けた大規模投資へいつかじを切れるか分からない。それでも、顧客がやると言えばすぐに提供できるように準備する。水素バーナーはト

ヨタ自動車との共同開発以降、ラインアップを増やしている。だが本格的な実用化に向けては、複数のバーナーを組み合わせた構成での実証が不可欠だ。窒素酸化物（NOx）や未燃アンモニアが出ないよう、空気をしっかりと制御しないとけな

い。台湾最大手鉄鋼メーカーの中国鋼鉄（CSC）とは、水素・アンモニアの燃焼技術開発で連携を強化する」

「新製品売上高を2027年3月期に40億円に高める計画です。計画達成は1年遅れの28年3月期になるだろう。ただその先の31年3月期に100億円に高めるとした計画は変更しない。それに

向けて、電気炉ダストリサイクル設備を拡販することを懸念している。一方で不透明感が続くならば、設備の燃料を石油からガスへ転換する顧客も増えるのでは、という期待もある」

「業務効率化に向けて取り組むは。既に運用中の設計支援システムに続き、5月上旬には調達支援システムも立ち上げる。紙でのやりとりをデータ化し、作業を効率化していく。その他の事務作業でも、当社の独自の生成AI（人工知能）の活用を進めている。今後はAIをバージョンアップして、設計開発や過去事例の分析などにも活用したい。当社は歴史が長い

新製品で100億円計画堅持

「業務効率化に向けて取り組むは。既に運用中の設計支援システムに続き、5月上旬には調達支援システムも立ち上げる。紙でのやりとりをデータ化し、作業を効率化していく。その他の事務作業でも、当社の独自の生成AI（人工知能）の活用を進めている。今後はAIをバージョンアップして、設計開発や過去事例の分析などにも活用したい。当社は歴史が長い

さかた・まもる 84年（昭59）大阪市大（現大阪公立大）工卒、同年中外炉工業入社。13年執行役員、16年取締役執行役員、25年同常務執行役員。大阪府出身、64歳。4月1日就任。